

校歌を知ろう！

みなさんは、入学式で校歌を耳にしてください。法政大学の現在の校歌は、1930（昭和5）年に学生たちの間で新たに作成の気運が高まって、それまで歌われていた校歌（現、行進曲）に代わり、制定されました。そのための募金活動、作詞・作曲者の選定・依頼も学生が担ったという、まさに「学生による校歌」です。

1 若きわれらが命のかぎり
ここに捧げて（ああ）愛する母校
見はるかす窓の（富士が）峯の雪
蛍集めむ 門の外濠
よき師よき友 つどひ結べり
法政 おお わが母校
法政 おお わが母校

2 若きわれらが命のかぎり
ここに捧げて（ああ）愛する母校
われひと共にみとめたらずや
進取の氣象 質実の風
青年日本の代表者
法政 おお わが母校
法政 おお わが母校



法政大学校歌の
試聴ページ

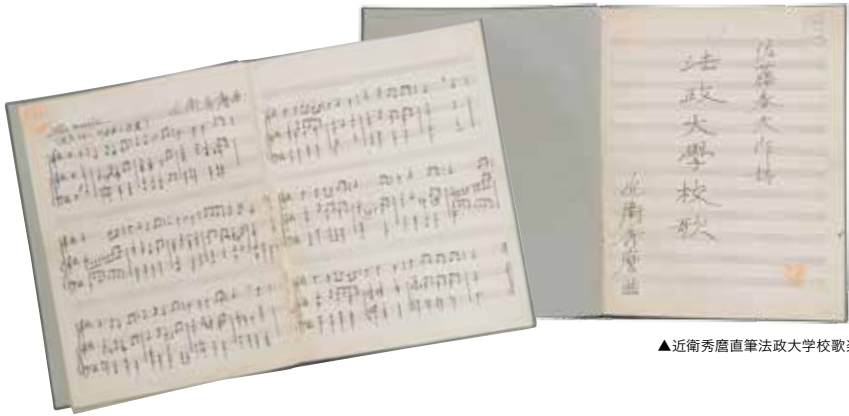
<http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/symbol/koka.html>



Alla Marcia

元気のよい行進曲の速度

わか-きわれらが いーのちのかぎり こ-
こにさ-き-げて あああいする母 校-み
はるかすまど-のふ-じがねのゆきほ
たるあ-つ-めんかどのも-とほりよ
きしよ-きとも つどひむ すべり 法-
政- おおわが母校 法政 おおわが母校 -



▲近衛秀麿直筆法政大学校歌楽譜

校歌は、これからずっと愛する母校のために尽くそうという志を謳います。

1番の「見はるかす窓の富士が峯の雪、蛍集めむ門の外濠」は、その名も富士見坂から、はるか遠くに雪を頂く富士山を望み、清らかな水をたたえその上を舞う蛍を集められる外濠に隣接する母校。そこは「蛍」「雪」が揃っていて、勉学に励むのに最適だという意味です。蛍の光や窓の雪の光で勉学に励んだ中国古代、六朝時代の学者車胤・孫康の「蛍雪の功」の故事をふまえています。昔は外濠も蛍が住めるほどにきれいだったのでしょう。

2番の「われひと共に認めたらずや、進取の気象、質実の風」は、我々学生たちもまた他の人々も皆が必ずや認める（「～たらずや」は「認めないことがあるうか」、反語表現です）、法政大学の時代を先取りする、自由でありながらも飾らない学風を称えます。

作詞者佐藤春夫は、抒情的な作風で知られる詩人で、小説や随筆等にも多才さを発揮した、大正・昭和初期を代表する作家の一人。当時、本学で文章の講義を担当していました。近衛秀麿は、後に首相を務める近衛文麿の弟で、指揮者・作曲家として、草創期の日本のオーケストラ運動を担った人物です。応援団員の古い回想文によれば学生のついでで作曲を依頼したといえます。

本学ホームページには音源も掲載しています。六大学の校歌のなかでも音域が広く、美しい旋律をもつこの校歌。その意味をかみしめつつ歌えるようになるまで聞いてみましょう。



作詞者
佐藤 春夫
Haruo Sato



作曲者
近衛 秀麿
Hidemaro Konoe



霞五郎, 1981,
『法政大学物語百年史』
法友新聞社